

令和7年度
第1回朝日地域振興懇談会
会議録（概要）

期日：令和7年9月12日（金）

場所：朝日庁舎 第1・2・3会議室

令和7年度 第1回 朝日地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時：令和7年9月12日（金） 18時30分から20時45分まで
- 会 場：朝日庁舎 第1・2・3会議室
- 出席委員：小野寺 仁、難波金一、佐藤 清、大瀧博勝、佐藤芳彌、進藤 淳、難波志津香、
佐藤尚貴 計8名
- 欠席委員：井上秀夫、清野一女、伊藤ます子、井上 舞、清野吉喜、今野めぐみ、伊藤由紀子
- 市側出席職員
 - 【朝日庁舎】支所長 佐藤智井、地域づくり推進課長 齋藤健一、産業建設課長 清野たえ、
地域づくり推進課 地域まちづくり企画調整専門員 齋藤富喜、主事 近野辰夢
 - 【本 所】地域振興課長 鈴木泰行、専門員 北山幸平、専門員 下本敬己 計8名

一次 第一

1. 開 会

※ 委嘱状の交付は、名前の読み上げで代用

2. あいさつ

佐藤支所長あいさつ

3. 会長・副会長の選出

4. 報 告

- （1）令和6年度第2回朝日地域振興懇談会での意見への対応について
- （2）かたくり温泉ぼんぼの現状について

5. 懇 談

- （1）地域振興課事業について
 - ・第2次過疎計画の策定について
 - ・次期鶴岡市地域公共交通計画策定について
- （2）令和7年度朝日庁舎主要事業について
 - ・令和7年度朝日庁舎主要事業
 - ・令和7年度朝日地域まちづくり未来事業
- （3）その他

6. そ の 他

7. 閉 会

1. 開 会 18時30分（進行 地域づくり推進課長）

2. あいさつ

佐藤支所長あいさつ

3. 会長・副会長の選出

互選により、会長に難波金一委員、副会長に今野めぐみ委員が選出された。

4. 報 告

（1）令和6年度第2回朝日地域振興懇談会での意見への対応について

説明：地域づくり推進課長

（2）かたくり温泉ぼんぼの現状について

説明：地域づくり推進課長

5. 懇 談

（1）地域振興課事業について

・第2次過疎計画の策定について

説明：地域振興課 専門員 北山

・次期鶴岡市地域公共交通計画策定について

説明：地域振興課長

（2）令和7年度朝日庁舎主要事業について

・令和7年度朝日庁舎主要事業

説明：支所長、地域づくり推進課長、産業建設課長

・令和7年度朝日地域まちづくり未来事業

説明：地域づくり推進課長、産業建設課長

【会長】

今回初めて委員になられた方もおり、本日は令和7年度第1回目の地域振興懇談会である。まず初めに日頃感じていることやご意見などを、各委員より一言ずつ発言いただきたい。

【委員】

今回の資料を拝見し、朝日地域でも様々な事業を実施していることを改めて感じた。課題も多いと思うが、庁舎職員の皆様が懸命に取り組んでいることに対し、大変ご苦労様と感じている。

【委員】

新しい取組も多く、事業計画は盛りだくさんである。前回も申し上げたが、人口減少が深刻であり、資料4（令和7年度 朝日庁舎取組方針と地域まちづくり未来事業）のグラフを見ても先行きに大きな不安を感じる。この点を中心に考えていきたい。

【委員】

朝日地域は山間部であるため、自然を生かした特色ある取組を見出すことが重要であるとする。地域振興懇談会や大泉地区住民懇談会においても様々な意見を伺い、新しいものをまた見つけて取組を進めていただきたい。

特に道路整備が重要である。現在も市内から多くの人々がサイクリングやマラソン、バイクツーリングで訪れているが、観光道路と呼べる水準の道路が整えば、より多くの来訪者が自然を楽しみ、地域振興につながると考える。今後の整備に尽力をお願いしたい。

【委員】

高齢者を取り巻く課題は多いが、健康づくりや仲間づくりを通じて地域に貢献できると考える。本日の懇談を参考にしながら活動を進めたい。

一方で、デジタル化への対応は高齢世代にとって困難が大きい。市職員による丁寧な説明を継続していただきたい。また、老人クラブ事務局を置く新庁舎内の社会福祉協議会の事務室で携帯電話が通じない。原因と改善策を示していただきたい。

また、定住促進を考える上では、人口減少や少子高齢化を前提に取り組む必要があり、特に雪の問題は大きい課題である。

産業建設課内にR天国推進室を設け力強く取り組むことは非常に良い。湯殿山スキー場においては利用者増の中、中央リフトの改修やスキー教室の実施状況について、今後の方向性を伺いたい。

【産業建設課長】

第1 ロマンスリフトの更新については、現在のところ計画はない。令和4年度に第2 ロマンスリフトを更新し、昨年度は駐車場の舗装補修を行った。環境整備を優先しつつ、将来的に更新を検討していく。

スキー教室については具体的な数は示せないが、旧鶴岡市内の学校や地元の朝日の子どもたちが利用している。スポーツ少年団も湯殿山スキー場を拠点として活動しており、雪不足時には庄内全域から利用が集中した。今後も子どもたちの練習の場として重要な役割を担っていきたい。

【地域づくり推進課長】

携帯電話がつながりにくい件については、新庁舎の建物構造や立地が影響している。通信業者に改善を要請しており、対応を進めている。

雪対策については、玄関前除雪支援事業や高齢者世帯の屋根雪下ろしを既に実施しているが、全世帯を対象とした雪に関するアンケートで実態を把握しており、地域の実情に即した新たな対策の実現を目指して取り組んでいく。

【委員】

地域の魅力発信を活動の柱としており、六十里越街道の動画制作なども行ってきた。今後も情報発信の強化が重要である。行政の事業や計画も住民が知らなければ効果が薄れる。WaGeShoとしても発信力向上に努め、行政とも協力して取り組みたい。

【委員】

地域の女性が広く参加できる組織として会を設立した。活動の一環として地元の「チョボラの会」と

交流し、ワラビの根を用いてワラビ餅を作った。非常に手間がかかったが、その優しい味は高級スイーツのように評価され、感動を共有した。大平のワラビ園を活用してワラビ餅が作られないものかと、地域資源を生かす可能性を感じた。

【委員】

過疎化により若者が減少し、消防団員の確保が困難となっている。災害は激甚化しており、消防力維持は重要課題である。朝日地域でも消防団の班統合が進む中、過疎問題は喫緊の課題であり、この懇談会においても議論を深めたい。

【会長】

各委員から地域資源や課題、将来への提案をいただいた。資料4（令和7年度 朝日庁舎取組方針と地域まちづくり未来事業）は人口動態を明確に示しており、今後の施策展開の基礎となる。限られた予算の中で辛いところに手が届かない状況もあるが、地域の将来像を描き、住み続けられる地域づくりを進めなければならない。新庁舎を拠点とし、周辺環境整備や中心街の在り方も議論する必要がある。

住民と共に考え、実行できる組織づくりも求められる。場合によっては懇談会から協議会へ移行し、より責任ある形で行政と連携していくことも視野に入れるべきである。

【委員】

人口減少への対応として、外国人移住者数の現状を伺いたい。また、空き家の活用や都市部からの移住・Uターン・Iターン施策について、朝日地域の計画があるのかお聞きしたい。

【地域づくり推進課長】

外国人は技能実習生や建設業従事者など数名が滞在しているが、正確な人数は把握していないので、後日報告させていただく。

移住については、市を介さずに受け入れが進んだ事例もあり、大鳥や上田沢に移住者がいると伺っている。昨年度も複数の移住が確認され、朝日の自然環境に惹かれて移り住む傾向があると考えられる。

【委員】

資料4（令和7年度 朝日庁舎取組方針と地域まちづくり未来事業）のグラフは、過去10年間の人口が下がり続けている現状を示している。この間に実施してきた人口減少対策が奏功しているのか、不十分なのか、分析はどうなっているのか。不十分であれば、同じ対策を続けても減少は止まらないと思われる。

具体的な対策として、子育て支援や婚活への取組はどうなっているのか。また、グラフにある15歳から64歳までの人口の中で、20歳から40歳程度の若者層がどれだけいるのか。この層の把握は、出生率を考える上で重要であり、その状況と、それに対する庁舎の考えをお聞きしたい。

【地域づくり推進課長】

人口減少対策については、旧朝日村時代から雪対策や公共交通支援など、「住み続けられる施策」を継続してきたが、それ以上に人口減少が進んでいるのが実態である。今後も人口減少は重要課題として捉え、住み慣れた地域で暮らせる施策を続けていく必要がある。

子育て支援は、市全体で「こどもまんなか」政策として、給食費・医療費の無料化、高校生等の通学費支援などを実施している。

生産年齢人口、特に働き盛りの年代の割合については、現在数値を持ちあわせていないため、後日人口ピラミッドなどの資料を準備し、後日、報告する。

【地域振興課長】

当課では、全市的な人口減少対策として、婚活と移住に取り組んでいる。

婚活では、特に「お見合い」に力を入れ、「つるおか婚シェルジュ」というボランティア組織が活動している。平成 27 年以降、約 660 回のお見合いを実施し、70 組が結婚に至っており、高い成功率である。

移住については、Uターン者への特産品送付による支援などを実施している。例えば、県外の大学に進学したお子さんが地元に戻ってくる。これも移住であり、支援の対象になる。広報 8 月号に市の移住施策の特集を掲載しているので、ご覧いただきたい。

【委員】

空き家対策について、テレビで報道された行政がリフォームに関わり移住者を誘致する遊佐町の取組を参考に、鶴岡市でも同様の施策は可能か、庁舎の考えをお聞きしたい。

【地域づくり推進課長】

空き家対策では、現在、NPO 法人の「つるおかランドバンク」という民間団体が空き家の情報提供を行っている。すぐに住める空き家については、この仕組みを通じて移住希望者に情報提供されている。

【委員】

出生数と保育園児数の差から、小さい子どもを持つ家庭が転出しているのではないかと感じる。朝日地域に残り、「ここで子育てして良かった」と思えるような支援や取組が必要である。

終了したジュニアキャンプは、子どもたちの心に地域の良さを残す貴重な機会であったため、今後も継続してもらいたい。代替事業は人数が少なくても、朝日地域の良さを伝える体験を続けていくべきである。また、以前のように二十歳の記念に朝日地域独自の行事があると魅力になると思われる。

【支所長】

「朝日を楽しめる子」を育むには、ジュニアキャンプのような体験を通し記憶に残ることが重要であり、子どもの人数が減っても、そういった体験の場はなるべく継続したい考えである。

人口減少は死亡数超過という社会動態も要因として含まれることを認識しつつ、対策に取り組んでいきたい。

【地域づくり推進課長】

ジュニアキャンプは昨年度で一区切りとした。今年度は代替事業として、チームWaGeShoと連携し、小学 6 年生や中学生が一緒に河川整備や芋煮会を行う予定である。地域の先輩との関わりを通じて朝日の良いところを学び、触れてもらう機会と位置付けている。

【委員】

朝日地域は自然豊かであるが、遊具などが不足しているため、子どもを連れて来づらいという声を聞いた。道の駅月山に遊具があることは知っているが、外部からも訪れたいくなるような遊び場整備の計画はあるのかお聞きしたい。

【産業建設課長】

道の駅月山の大梵字のところにある遊具は産業建設課で管理しており、昨年度は老朽化した滑り台を交換した。草刈りについては、これから秋の行楽シーズンに向けて実施する予定である。遊び場の穴場として活用していただきたい。

【支所長】

子どもの遊び場整備は重要な課題であり、住民懇談会でも「子どもを遊ばせる場所がない」という意見をいただいている。今後の取組として、健康の里ふっくらの機能を検討する際に、子育て世代の意見を聴取することを想定している。市の「こどもの遊び場に関する協議会」の計画とも整合性を取りながら、まずは朝日地域内で「ふっくらの活用」について意見を伺う予定である。

【委員】

移住については、仕事や教育環境が重要な子育て世代と、余生を風光明媚な場所で過ごしたいリタイアした高齢者層とでは、誘致の戦略を分けるべきではないか。特にリタイア層に焦点を絞り、鶴岡の物価の安さをアピールするなどの働きかけも有効ではないか。

また、長男であっても鶴岡市内に家を建てるなど、集落の核家族化・一人暮らし化が進んでいる現状がある。移住促進は、他地域の成功事例を見ながら考えていくべきである。

【地域づくり推進課長】

移住と若者の転出という2つの発言について、庁舎としては朝日地域に残っていただく施策を中心に、地域の協力も得ながら様々な状況を聞きつつ検討を進めていく。特効薬はないが、多様な施策を講じながら検証していきたい。

【地域振興課長】

昨年度の市全体の移住人数は過去最多であり、県内では山形市に次いで第2位である。特に40代未満の若年層が80%を占めるなど、他の地域と異なる特徴がある。市の評価も非常に高く、移住雑誌のランキングでは10万人以上20万人未満の都市で全国第5位、東北エリアの総合部門で第1位となっている。

【委員】

地域まちづくり未来事業は、単なる事業の単品実施ではなく、連携することでより効果が出るのではないかと感じる。未来事業の総括や連携を担う組織はあるのか。

また、未来事業の約2,000万円の予算は、取組次第で増額される可能性があるのか。あわせて、過疎債との関連についてもお聞きしたい。

【地域づくり推進課長】

未来事業の総括は、自治会長会議や住民懇談会、地域振興懇談会を通じて意見をいただきながら、検証する流れになっている。庁舎だけでなく、地域で活動している様々な団体からの協力を得て事業を進めていく考えである。

予算は各庁舎に毎年 2,000 万円程度の配分の中で事業を組み立てている。過疎債については、朝日地域で実施する事業ごとに内容を判断して過疎計画に掲載し活用している。

(3) その他 特になし

6. そ の 他

【委員】

懇談会の会場について、以前に朝日中央コミセンの大集会室で開催した時はすごく離れていて緊張したが、今回は会場がコンパクトで、マイクなしでも話せるようなサイズ感であったため、懇談会らしくて話しやすいと感じた。

【地域づくり推進課長】

このような懇談会は、今後も可能な限りこの会議室で開催したいと考えている。

7. 閉 会

(終了 20時45分)